

## 卓上四季

丸いがあるかと思えば、細長いのもある。黒紫色に熟したハスカップは個性的だ。味も甘みが強めだったり、酸味や苦みが目立った。人間を思わせる▼苫小牧市東部の勇払原野を歩き、ハスカップの群生地を実を採った。高温が続いた今季は例年になく旬が早いそう。藪で出会った同好の士は「例年なら（7月中旬の）樽前山神社のお祭りのころだけ」と話す▼山の幸を味わう喜びは地域を問わない。けれど天然のハスカップ採りを広く楽しめるのは、ここぐらいだろう。これほど広い群生地が残るのは勇払原野だけ。住民が原野に入り自由に採ってきた。使い道の定番はジャムや果実酒だが、ユニークなのは塩漬けだ。梅干し代わりに使うおにぎりは懐かしい故郷の味である▼この初夏の味も開発の波にさらされた。国策プロジェクトの苫小牧東部地域（苫東）開発で群落の面積は縮小した。保護や利用との両立をどう図るか。自生株を移植する試みが続けられた▼近年はNPO法人苫東環境コモンズが保護の一翼を担う。活動を理論的に支えたのが、戦後日本を代表する経済学者宇沢弘文さんが提唱した「社会的共通資本」だった▼それは人間間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような自然環境や社会的装置。人々の幸せを支える共有財産だ。人類の未来を展望し続けた宇沢さんの思想がハスカップを守る。

2023.7.4